森の守護神

森ボラ通信

第 55 号　2006 年 12 月 20 日発行
ＮＰＯ法人 北海道森林ボランティア協会
札幌市中央区南 2 条西 2 丁目金市館ビル 8F
Tel:241-8155　Fax:241-8308
E-mail:h-shinrin-v@indigo.plala.or.jp
URL:http://www.geocities.jp/hokkaidoforest/

■トピックス

◆　2006 年忘年会、登別にて開催

師走に入ったばかりの 12 月 5 日～6 日、2006 年の忘年会が登別温泉で行われました。総勢 33 名、これだけの会員が一同に会したのは久し振りです。行き帰りのバスも貸切となりました。この日、参加者の中に嬉しい顔が見えました。山中さんです。山中さんはひと月を超える入院生活から無事生還したばかり。入院直前まで人並み外れたパワーを提供してくれており、皆が信じられない思いで心配していました。札幌駅北口、待ち合わせ場所に近づくと、雑踏の中に黒山の人だかりが見え、その中心に頭一つ分出た山中さんの顔がありました。少し照れた笑顔を、ホッとした、たくさんの笑顔が取り囲んでいました。

宿に到着したのは薄暗くなりかけた頃、一風呂浴びて宴会の開始です。酒井代表が当会の稼動日数は全国的にもトップクラスであること、ホームページの日平均アクセス数も上位にあり注目されていることなどを挙げ、これからも胸を張って活動しようの掛け声で乾杯。恒例のビンゴは、湯澤さんのタケノコに、今年は各自景品を持ち寄りました。正月用に誰もが欲しがるタケノコは、執念で半数以上を女性陣が勝ち取りました。今やビンゴガールといえば山原さん以外に考えられません。軽妙な話術で今年も大いに盛り上げてくれました。

部屋に戻っての 2 次会は、5 人用の部屋にぎっしり鮨詰めで、ざっと 25 人は入ったでしょうか。笑いと熱気で部屋は飽和状態でした。これからの活動について熱っぽく語る声が彼方此方から聞こえてきて、個性とアイデア溢れる頼もしい仲間たちを見るにつけ、来年の活動開始が待ち遠しく思えた一夜でした。　　（柴田記）

◆　第二回および第三回札幌市森林ボランティア会議

12 月 6 日(水)13 時 30 分より、出席酒井代表幹事、髙野事務局長
規約の内容検討。および財源について、除伐材の付加価値活用を再々提言、とりわけシイタケ栽培のホダ木の採集をアピールしましたが、実現に向けてのハードルは高そうな市側の反応でした。

12 月 15 日(金)13 時 30 分より、第三回の会議に臨みました。出席酒井代表幹事、髙野事務局長
札幌市当局の関わり方がこれまでの流れと違うことになり、資金管理には市当局は関与しないことになり、市当局が関わる協議組織「**さっぽろ森林フォーラム**」と関わらない資金管理を含む実践組織である「**さっぽろ育林ネットワーク**」の 2 本立てでとにかくスタートすることになりました。コンセプトは 10 月号で報告したものと同じです。初代代表は「札幌ウッディーズ」代表の河崎　盟さんが就任しました。
同時にネーミングも前述のように多くの案を検討の上、決定されました。
「さっぽろ育林ネットワーク」の構成員は以下の 3 団体です。事務局は札幌市森林組合に置きます。
札幌ウッディーズ
北海道森林ボランティア協会
札幌市森林組合

◆12 月セミナー　スズメバチのはなし

12 月 18 日(月)13 時 30 分より、リンケージプラザ参加者 25 名。
森林作業中の危険生物の筆頭がスズメバチ達です。毎年命を奪われる人数はクマより多いといわれています。もちろんマムシなんか問題にしません。当協会でも毎年誰かが刺されています。幸い事故にはなってきませんでしたが､刺された人がハチアレルギー体質の人でなかったことで大事にはならなかったのです。
セミナー欠席の方のために以下要点を記しておきます。

スズメバチに出会ったら
種類は、狩猟中か、偵察か、警戒か(巣が近くにある)。
春から初夏にかけては攻撃的ではない、危険なのは秋。
巣が近くにある場合は、まず巣の方向には近づかない、あと戻りが安全。
巣に近づくに従い、警戒→威嚇→攻撃→総攻撃。
ハチアレルギー体質の人は一刺しでも生命の危険、病院に急行する。
普通の人でも総攻撃され複数回刺されると生命の危険｡病院で手当をする。
安全のために
まずハチトリ器(罠)を仕掛けて敵の存在を確認しよう。
種類は?　罠にかかる数が多いと近くに巣がある。餌を咥えて飛び去る方向に巣がある。
肌を露出しない。黒色の服装、帽子を着用しない。ヘルメットから頭髪をはみ出させない。
クマが天敵。クマに対してはただちに攻撃モードとなる。クマと間違われるような服装は避ける。

■今月の幹事会

出席者：荻田、酒井、杉本(茂)、髙野(豊)、津金、西野(悌)、棟方、村上(昭)、山中、和田
1　ホダ木採集除伐日設定および 1、2 月スケジュール調整
　　→1 月に 4 回の作業日を設定する。事務局で設定
2　札幌市森林フォーラム(仮称)のネーミング募集
　　→さっぽろ森林保全協議会、さっぽろ里山保存会、さっぽろ森林活用協議会、さっぽろ森林整備協議会、さっぽろ森林活用・保全協議会
3　平成 19 年度、年次スケジュール
　　→点検、確認、「さっぽろ育林ネットワーク」の作業が確定すれば、それを優先し、他のスケジュールを変更・調整する。
4　助成金担当チーム編成
　　→荻田、酒井、髙野の 3 名体制
5　1、2 月セミナーのテーマおよび講師
　　→1 月 12 日　原木シイタケ栽培のはなし　講師：三浦　清(元北大教授)
　　2 月 09 日　炭焼きのはなし　講師：森づくりセンターと調整
　　3 月 20 日　樹液のはなし　講師：寺沢　実(北大教授)
　　4 月上旬　樹液の採り方　講師:寺沢　実
6　森林ボランティア 4 団体(当協の他、石狩、当別、北広島)交流会の内容
　　→おしらせ　ボランティア交流会のとおり
7　ニセアカシヤによる炭焼き準備
　　→玉切り、集材、選別、炭化炉設置場所、関係先への許可申請
　　炭化炉借用も視野にいれておく
8　その他
　　→①リンゴ園緊急動員連絡担当：虎谷
　　②巨木調査(神宮境外林等)プロジェクトを追求、助成金申請準備

会員の動向
　　退会者：高橋伸枝

■おしらせ

木工納め会
日時：12 月 26 日(月)12:00～
場所：杉本邸
備考：アルコール(持込歓迎)付につき、公共交通機関でおいでください。
　　おつまみ 1 品ずつ各自持参

忘年会二次会風景

1 月例会
日　　時：平成 19 年 1 月 10 日(水)13 時 30 より
場　　所：リンケージプラザ
終了後、場所を改めて新年会へ(当日場所および会費を決めましょう)

1 月セミナー
日　　時：平成 19 年 1 月 12 日(金)10 時より←時間に注意
場　　所：リンケージプラザ
講　　師：三浦　清(元北大教授)

ボランティア交流会
日　　時：平成 19 年 1 月 20 日(土)13 時 30 より
場　　所：リンケージプラザ
参加団体：NPO 北海道森林ボランティア協会、石狩森林ボランティア(クマゲラ)、
　　北広島森林ボランティア(メイプル)、当別森林ボランティア(シラカンバ)
内　　容：(1)パネルディカッション
　　①活動の現状と課題　②協同事業・行事の模索　③装備等の共同利用
　　(2)懇親会　会場：万田林(MANDARIN)　北 1 西 10　北 1 条山地ビル 1F　℡011-231-0088
　　時間：17 時頃
　　会費：2500 円

今後の課題

以下、それぞれ助成金を申請し、資金の支援をあおぎますが、資金手当てが出来次第着手いたしましょう。

①ニセアカシヤの有効利用
北海道神宮、西野第二から大径木を含む相当量の材が出ます。札幌の街路樹として身近な存在ですが、材の利用は未開発です。芯材は明るい茶色で堅いので、木工材料として利用してみましょう。大径木を板や角材に挽いて加工してみましょう。端材や小径木は木炭にしてみましょう。どんな性質の木炭になるのか楽しみです。

②キノコ栽培の拡大
澄川のテストが成功したので、規模を拡大しましょう。ホダ木は樹液の動きが止まっている冬期に伐採した方がよいので、この冬除伐作業を行います。

③神宮境外林巨木調査
先に神社山探検でカツラの大木に出会ったことから、神社山を含めた神宮境外林(300 ㌶)は手つかずの天然林が残っているので、知られていない大木があるにちがいないのです。環境庁の基準に従って、GPS により、場所を確認し、写真撮影および樹種、胸高直径、周囲、樹高を計測記録したいです。

④澄川の森林いきもの調査
澄川は沼や沢筋に湿地があり、湿性植物がある珍しい環境です。ホタルの生息が確認されたことで、他にも珍しい生き物が生息している可能性を含みますので、森林生態の詳細調査を行いたいですね。

■活動履歴

活　動　日	行　　事	参加人数	活　動　内　容
12/19	木工	17	個別作品製作
12/18	セミナー	25	スズメバチ対策
12/11	幹事会	10	
12/5	忘年会	33	登別温泉石水亭
11/28	澄川	8	木道防腐塗装
リンゴ園	冬期作業なし		

■ひとこま

◆澄川での冬期除伐によせて

この冬、冬期除伐作業を実施します。本来用材の伐採は冬期におこなわれるものでした。樹木が樹液を上げることを休むので, 腐りにくく緊縮した良い材の状態で採材できるからなのです。キノコ用のホダ木にしても雑菌が入りにくいので、植えた菌の成長がよろしいのです。ホダ木採材を意識してミズナラを重点的に攻めます。

冬場は森に入る機会が少なくてもの足りませんが、この冬は少しは癒されます。そうです。森は私を癒してくれるのです。例えば除伐をやろうとする場合、1 株から 5 本、6 本と立ち上がっている内のどれを残すか、どれを倒すか 1 株の樹木との対話をします。樹冠の広がりはどうか、隣の樹木との間隔はどうか、樹冠に蔓がからんでないか、倒す場合どの方向に倒れたがっているか、倒れる方向にどう掛かるか、残した幹の枝ぶりはどうか、将来よい木になりそうか、チェンソーなしにどれくらいの労力が必要か、自力でできるか、などなど考えながら決断します。1 株 1 株に対して周囲の樹木や下草、つる等を考慮にいれ、鋸を当てる前に安全を確認してから、「よし、やろう」、と気合をいれて鋸を引くのです。すんなり倒れてくれる場合は胸高 10 ㎝ほどの小径樹でも、ズッシンと地響きをたててくれます。達成感を味わいます。が、掛かり木になるとさらに多くの判断が必要になります。引っ張って倒れるか、どの方向に引っ張れるか、引っ張れないから刻もう、刻むとどう動くか、安全にできるか、助力を頼むか、チルホールが必要か、的確な状況判断と臨機応変の処置が要求されます。これらすべてが自然との対話なのです。かかわる人十人十様の対話を行っていると思うのです。作業をつづける内に、肉体年齢からエネルギー発揮に限界が来ます。ガス欠状態を実感します。そろそろ昼飯なのです。自分の肉体も自然物に違いありませんから、これも自然との対話なのです。

除・間伐はひとつ間違えると命にかかわる事故になります。これまでに皆で万に及ぶ数を倒してきたと思うのですが、一度の怪我もなかったのは奇跡のような気がします。一人一人の状況判断、安全意識のレベルの高さによるものと思います。この記録を永久に伸ばすことを使命とし、この冬の作業もやってやろうじゃないですか。

手袋は軍手の上に大きめのゴム手袋をかぶせるとよいでしょう。濡れて凍らせると凍傷になります。寒さが厳しい時は、素手で鋸や鉈の鉄の部分に触れるのも危険です。べたりとくっついて下手をすれば皮がべろりと剥ぎ取られます。用心してください。(髙野　記)

除伐したい株

冬の作業道はキツネ専用